

令和6年4月1日

令和6年度 学校経営方針

上尾市立原市南小学校

校長 小高 達也

1 はじめに

<学校教育の目指すもの>

教育改革が急速に進んでいます。中央教育審議会からは「令和の日本型学校教育」の構築を目指して答申が出されました。今まで「知・徳・体」を一体で育む教育を押し進めてきた日本型の教育は、そのよさを受け継ぎながらも更に発展させ、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るべく授業改善を推進していくことが、これからの学校教育の新しい姿として示されました。

校長は、感染症対策や急務を要する課題が山積する中、過去から今日まで学校教育が担ってきたその役割を自覚し、教育における不易と流行を見極め、未来に繋がる学校教育の構築に向けて全力で、迅速に取り組む必要があります。そして、「自ら未来を切り拓き、多様な人々ともに生きる力を身につけた子供の育成」のために創意工夫を凝らした学校経営を力強く推進しなければなりません。

<原市南小学校の学校経営>

学校には不易と流行があります。[GIGA スクール構想]等流行の部分は、その時代の変化や要請に応じて適切に対応していかなければいけません。加えて、もう一つ大切な部分は、いつの時代であっても、「子供たちの確かな学力の定着」「心身の健やかな発育と成長」「仲間と協力し、明るい生活を営む態度」等の不易の部分であり、これは「知・徳・体」を一体として育んできた日本型学校教育の誇れる部分でもあるということです。

私は校長としてこの不易と流行を確実に成し遂げていくことが大きな使命と考えています。変化の激しい教育界ではありますが、学校においては、今も昔も「子供が主役」であることに変わりはありません。私は本校教職員の力を結集し、家庭・地域と強固な信頼関係を築き、子供たちの成長や進歩に繋がる対応や取組を効率的・効果的に推進していこうと考えています。

今年度私たちは、培うべき子供たちの資質・能力を明確に意識し、「主体的・対話的で深い学び」につながるよう授業を展開していくことを目指します。そのためには、より多くの体験的な学習や問題解決的な学習を行うとともに、全教職員が方向性をそろえた体制で授業改善を行うことが何より重要なこととなります。

また、不登校やいじめ問題、学習不適応など学校の抱える問題は多岐におよび見過ごせない所まできています。こうした問題は決して一人で抱え込まず、組織全体として取り組むことが大切です。もとより学校は組織体であります。分掌主任を中心とした縦の組織をもとに、互いの分掌も横の連携を取りつつ、教職員が一丸となって児童の教育に当たりたいと考えます。

上記のことを踏まえ、学校教育目標実現のための3つの基本的な考え方、及び校長の学校経営方針を下記に示します。

基本的考え方

- ①共通理解のもと、組織的な体制で対応する
- ②高い参画意識をもって、創造性のある取組を行う
- ③風通しのよい人間関係をつくる

2 学校教育目標

- よく励む子 ○心さわやかな子 ○粘り強い子
- ※ 自ら学ぶ、かしこい子
 - ※ 仲間と協力する、やさしい子
 - ※ みなぎる力の、たくましい子

<目指す児童像>

- ★自ら考え、様々な人と協働しながら主体的に課題を解決していく児童
- ★多様な考え方を認め、自己を律することができ、他人を思いやることができる児童
- ★心身共に健康でたくましい児童

<目指す教師像>

- 「信・敬・慕を兼ね備えた魅力ある教師」
- 褒め、認め、自己肯定感を育てる教師
 - 情熱と使命感をもって、創造性豊かに取り組む教師
 - 児童に寄り添い、温かい人間関係を築ける教師

キーワード 児童の想像力 教職員の創造力

3 学校経営の基本方針

- (1) 全ての子どもたちは「公平・平等」に指導する
- (2) 教職員の授業力を向上させ、学力の向上を図る
- (3) 充実した学級経営を行い、児童の自己肯定感が育まれる環境をつくる
- (4) 地域と連携し、児童のボランティア参加を推進する
- (5) いじめ、不登校への対策を強化する（未然防止と初期対応）
- (6) 体力の向上を図る
- (7) 働き方改革を視野に入れ、今までの教育活動を見直す

4 指導の重点・努力点

- 校内研修及び課題研究により自身の資質向上に努め、学級経営を充実させ、児童の自己肯定感を育む。
- 学校課題研究を中心に据え、授業改善を進めると共に教員一人一人の授業力向上を目指す。
- 働き方改革を実現し、今までの指導にとらわれず、創造力豊かな効果的な指導方法を実践する。
- 生徒指導、教育相談についてはSCやSSWとの連携も密にして、より組織的な対応を迅速に行う。
- 今年度の職務と自己評価シートをリンクさせ、PDCA サイクルに沿って教育活動を展開する。
- 保健、給食、体育環境を改善し、アレルギー等を含む事故を未然に防ぎ、安心安全な学校を実現する。
- 保護者・地域との連携を深め、開かれた信頼される学校を目指す。
- 教育公務員としての職責を深く自覚し、学校教育への信頼を獲得するため、職務の厳正に努める。

■具体的な指導の重点・努力点

(1) 教職員組織の活性化とサービスの厳正

- 学年主任、分掌主任はリーダーシップを発揮し、若手教員を育成する。
- 通勤時の服装、授業時の服装等、教育公務員としての自覚をもつ。
- 教職員事故を根絶する。相談、報告、連絡、確認を徹底する。
- 教育相談、生徒指導についての問題は組織的対応を大前提とし、チームとして対応する。必要に応じてカンファレンスを行う。
- 公務中の撮影は必要最小限度の範囲内で行うこと。
- 前年度踏襲は原則行わない。新しい視点で創造的な活動を行う。

(2) 確かな学力の定着と学力向上

- 自己評価シートの活用を一層推進し、PDCA サイクルを重視した取組を実践する。
- 学力向上を学校課題研究の充実で実現していく。そのために学校全体の協力体制を確立する。

- 家庭学習を継続して行う。質・量ともに昨年度以上を目指す。校内で統一した取組とする。
- 自身の授業を見直し、視点を絞り目標を明確にした上で、日々の授業改善に取り組む。

(3) 体力向上と健康教育への取組

- 体育部を中心として、体力向上への取組に努める。
- 健康増進に自主的に取り組む児童を積極的に育成する。
※地域スポーツ団体への参加を奨励する。
- 学校保健委員会、保健部を中心として児童の保健環境、給食環境を改善し、学校保健指導、食育指導の充実を図る。

(4) 豊かな心を育む教育への取組

- 積極的に道徳授業の改善に取り組む。
- 各学級が学級だよりを発行し、保護者との信頼関係の醸成に努めると共に、学級内における児童の自己肯定感を高める学級経営を積極的に行う。
- 課題研究との関連を考え、積極的に児童の作品を展示し校内掲示教育の充実を図る。
- 人権教育、ボランティア福祉教育を積極的に推進する。
※児童委員会を積極的に活用していく。
- いじめ、不登校(長期欠席含む)を防止に取り組む。
※生徒指導や教育相談体制を更に充実させ、組織対応を実践する。
※担任による創意工夫した取組を行うとともに、いじめ発見アンケートを積極的に活用する。
- 豊かな心育てる教育活動を推進する。
※あいさつの励行(生徒指導部)
読み聞かせボランティア(図書館教育部)
音楽朝会(音楽部)
学校花壇(栽培委員会)
イングリッシュ・カフェ(外国語部)等々

(5) 生徒指導・教育相談活動の充実

- 学期当初の学習規律の徹底については学校として取り組む。各学年の指導目標を明確にし実践する。
- 指導方針の共通理解を進めると共に共通行動を実践する。
※原市南小学校のきまり等の指導を徹底する。
※常に最悪を想定して、慎重に、素早く、誠実に、組織を挙げて対応する。
(生徒指導のさしすせそ)
- 関係機関、主任児童員・民生委員との連携を密にする。

(6) 安全教育の徹底

- 安全点検の着実な実施と迅速な対応を行う。
- 目的を明確にした、効果的な避難訓練を行う。
- 登下校の安全、下校班の安全には十分留意し、学校としての取組を明確にする。
 - ※PTAとの連携（通学班担当）
 - ※下校班への継続した指導。（1～2年学年対応）3年以上自由下校。
- 自転車の乗り方指導、ヘルメットの着用啓発を継続して行う。（安全部）

(7) 開かれた学校づくり、特色ある学校づくりへの取組

- 学校経営、教育活動を積極的に公開する。
- 地域との交流、地域行事に積極的に参加する。
- 地域の教育力を積極的に活用する。（学校応援団の充実）
- さくら連絡網の効果的活用を図る。（情報発信）
- 原市中学校、原市小学校との小中連携事業を継続し、更なる充実を目指す。
- PTA本部会との情報交換会を行う。（校長、教頭が継続実施）